

小児画像診断部

1. スタッフ（平成27年4月1日現在）

部長（教授） 相原 敏則
 副部長（講師） 古川理恵子
 医員（病院助教） 中田 和佳

2. 診療科の特徴

医療が臓器別に専門分化が進む現在、全身を診る唯一の診療科が小児科ですが、私たち小児画像診断部もそれにならない、全身の疾患を画像診断の対象としている。その特徴を一言で言えば「適応から判断し検査計画の立案から始まる画像診断」となる〔注1〕。そのために、附属病院本院では放射線科医が担当していない超音波検査も装置を自前で所有し引き受けている〔注2〕。

小児画像診断部は自前のカンファレンス室を有している。JUMP（電子カルテ）、PACS（画像診断電子保存供覧システム）を大画面プロジェクター（DICOM対応）で映写し、出席者に供覧して議論することが可能である。このカンファレンス室では小児科（頻度は週2回）、小児外科（同週1回）、尿路（関係する診療科は小児科と小児泌尿器科。同週1回）の定期画像診断カンファレンスを開催し、依頼医との関係が「オーダーと読影レポートの往復」で終わらない工夫をしている。

注1：

詳しくは子ども医療センターホームページの「小児画像診断部」をご覧ください。（学校法人自治医科大学HP→自治医科大学附属病院→とちぎ子ども医療センター→診療科等のご案内→小児画像診断部）

注2：

小児画像診断部放射線科医が超音波検査が必要と判断した症例に限って検査を引き受けている。これは、放射線科医が行う超音波検査は精査であると考えられるからです。「超音波検査は侵襲がないから、非熟練者が検者であっても気軽に行ってもよい」とする考え方に対するアンチテーゼでもある。超音波検査は画像診断の入り口として使われることが多い現状では、そこで診断を誤ると、とんでもない方向へと判断を導いてしまうことを危惧するのです。そのため予約枠は開示していない。

・認定医

日本医学放射線学会放射線科専門医 相原 敏則
 古川理恵子
 中田 和佳

3. 診療実績（2014年1月1日～12月31日）

1) 検査件数（小児画像診断部での撮影のみ）

単純X線写真	14,601 [注3]
造影検査（X線透視）	369
MRI	1,350 [注4、注5、注6]
超音波	516

注3：

集計の元となるデータはRIS（放射線情報システム）から得ている。RIS設計上の制約があり、撮影対照が小児でありながらオーダーエントリーが子ども医療センターからではない撮影（例えばNICU/GCUから依頼されるポータブル単純X線写真）は、この数字には含まれない。したがって、単純X線写真の読影件数〔2〕はこの数字（14,601）が母数ではない。

子ども医療センターに設備を持たないCT検査、核医学検査も同じ理由で小児を対象とした検査件数を抽出することができないため、ここでは数字を示さない。

注4：

鎮静を試みたが入眠剤せずMRIを行った検査実績を下に示す：

鎮静を試みた検査件数	666件
入眠剤検査が中止（のべ）	74件
中止割合	11.1%
検査中止までの平均拘束時間	110.3分（1.8時間）
検査中止までの最大拘束時間	240分（4時間）

注5：

麻酔科医による全身麻酔下でのMRI 12件

2) 読影件数

単純X線写真	4,364
造影検査（X線透視）	115
MRI	1,190
超音波	516
CT	805
RI検査	118

3) 画像診断カンファレンス

（会場：小児画像診断部カンファレンス室）

小児科	月曜、木曜 12:45から
小児外科	月曜 16:00から
尿路（小児科、小児泌尿器科）	火曜 17:30から
小児整形外科	月曜 17:30から
Tumor Board	毎月第3月曜日 15:30から

これら小児画像診断部で開催するカンファレンスの

他、

NICU担当医との画像診断カンファレンス

金曜 12:30から

NICUのカンファレンスに出席しています。

この他、問題となる症例が現れるたびに随時関係診療科との間でカンファレンスを持っている。

4. 事業計画、その他

1) X線CTの導入

子ども医療センターでは、その性格上重症患者が増加することは避けられません。院内での搬送に伴う患者の負担を軽減すべく、CTの導入を目指して予算要求している。

2) 附属病院放射線科との関係

血管造影検査、血管内治療、IVRは附属病院放射線科が担当している。

3) 研修医教育

研修医向けの小児画像診断ミニレクチャーを開催している。

日時： 木曜日午後5時15分から30分間

会場： 小児画像診断部カンファレンス室

対象として想定しているのは放射線科研修医ですが、小児画像診断に興味がある方は、職種、診療科を問わず歓迎する。